

一祐会で働く多国籍職員

～患者さん、入所者さん、利用者さん、
そして働く人の「その人らしさ」を
大切にできる現場を目指して～



少子高齢化が進む日本では、介護の担い手不足解消のため、アジア諸国を中心に海外からの人材の受け入れが進められています。今回、当法人で「外国人雇用管理主任者」の資格を持つ介護品質管理課の谷頭 秀紀 課長に当法人で働く多国籍の職員について話を聞きました。

◆ Q1：一祐会でも海外にルーツを持つ職員が働いていますね。

現在、一祐会では、ベトナムやインドシアなど4カ国、10名以上の職員が働いています。働き方はさまざまで、「技能実習生」「特定技能外国人」「留学生のアルバイト」の他、日本の国家資格である介護福祉士となり「介護ビザ」を取得し働いている人もいます。

◆ Q2：どのように選考していますか？

2019年より一祐会職員がベトナムなどに現地訪問して、採用のための面接会を行ってきました。一祐会ファミリーとして、寝屋川の医療・介護を長く支えてくれる仲間になってもらえるよう、自分の考えを日本語で説明できることを採用のポイントのひとつにしています。

◆ Q3：多国籍の方と働く上で、工夫していることはありますか？

阪神淡路大震災をきっかけに生まれた「やさしい日本語」を日本人職員と勉強し、相手の立場に立って、円滑なコミュニケーションが取れるよう、伝え方や書類の表現に気を付けています。



◆ Q4：異なる文化を持つ職員と一緒に働く上で心掛けていることはありますか？

日本で働く海外の方にはヒジャブ（スカーフ）を普段から身に着けたり、毎日に決まった時間にお祈りをする文化を持つ方もいます。ヒジャブは衛生的に着用が難しい現場ではないので、職員の文化的な背景が尊重されるべきだと考え、着用可能としました。また、お祈り専用の部屋「プレイルーム」も設置しました。

当法人の施設では入所者さん、利用者さんの「その人らしい生き方」を大事にしています。それをうたっている場所で「働いている人は例外」というのは有口無行です。

働く人の「その人らしさ」を大切にできる現場が、入所者さん達にも「その人らしく」いられる場所になるのではないのでしょうか。



日本の国家資格を取得し、一祐会職員となったデラ・マリンド・ジャヤさん



インドネシア、ランブン州出身のデラ・マリンド・ジャヤさんは、今年3月、日本の国家資格である介護福祉士に合格。3月まで、介護の専門学校に通いながらアルバイトとして介護老人保健施設ハーモニーで働いていましたが、4月に常勤職員となりました。

日本を訪れて10年。デラさんのこれまでを伺いました。

◆ Q1：日本に行こうと思ったきっかけは何ですか？

ずっと「海外で働きたい」という夢がありました。どこに行こうか考えた時、親戚が「日本は安全だ」と言っているのを偶然、聞きました。私は、アニメの「ワンピース」が好きだったので「日本に行って勉強しよう！」と決めました。

◆ Q2：日本語はどのように勉強しましたか？

日本に発つ前の3カ月間、インドネシアで日本語の講座を受け、来日してから群馬県にある日本語学校に1年半通い勉強しました。

◆ Q3：どうして介護の仕事を選んだのですか？

日本語学校を卒業してすぐ、観光系の専門学校に入学しました。

卒業後は茨城県の旅館で着物を着て、食事配膳やお客様の案内をして働きました。とても楽しかったのですが、旅行で秋の関西に来た時に、関西（特に大阪、京都、奈良）に住みたい！と思うようになりました。毎日行きたいと思うほど、とても良かったからです。そして、大阪にある介護の専門学校に通うことにしました。介護を選んだのは、気が優しい人が多いと思ったからです。

◆ Q4：すぐに介護現場で働く選択肢もあったと思いますが、

専門学校から再スタートしたのはどうしてですか？

確かに、私のビザでは、未経験でもすぐに介護現場で働いて経験を積むということも出来ました。けれど、「介護」については、私は素人です。時間もお金もかかりますが、学校でゆっくり、しっかり勉強してちゃんとした技術を身に着ける方が良いと思って選択をしました。

◆ Q5：今は、どのような仕事を担当していますか？

日本人の介護職と同じで、食事やトイレ、入浴の介助などです。

《デラさんの1日（日勤の場合）》

- ・ 8:30 出勤
- ・ 9:00 トイレ誘導・オムツ交換・水分補給
- ・ 11:00 ラジオ体操・口腔体操
- ・ 12:00 昼食介助・口腔ケア
- ・ 13:00 トイレ誘導・オムツ交換・水分補給
- ・ 14:00 レクリエーション
- ・ 15:00 おやつ介助
- ・ 16:00 介護ソフトへの記録
- ・ 17:00 退勤



◆ Q6：すぐに慣れましたか？

“ハーモニー”では、新人が独り立ちできるよう先輩がついて、サポートしてくれます。最期まで苦勞したのは「移乗介助」でした。

◆ Q7：大変だったことは何ですか？

一つは、アルバイトです。学費と生活費のために夜はバイトをして、日中は学校に通う生活でした。その時は、若かったから出来たと思います。

二つ目は、介護の専門用語です。例えば、最近覚えたのは「残存機能」（ざんぞんきのう）です。読み方が分かっていても意味は分かりません。そういう時は、専門学校の先生に質問して先生の答えをインドネシア語に訳して理解します。ちなみに、残存機能は、「その人に残っている動ける力」の意味です。

◆ Q8：介護福祉士の資格を取る上で苦労したことはありますか？

学校以外でも勉強は必要ですし、毎日 10 問の問題は必ず解くことを習慣にしていました。それは合格した今も続けています。

私はあまり勉強が好きの方ではなかったのですが、好きなもの、やりたいことのためにこんなに勉強を続けている自分を昔の自分が見たら驚くと思います。



◆ Q9：働く上で大切にしていること、気を付けていることはありますか？

日本に来た頃に始めた夜の工場バイトでは、スピードが求められましたが、ここは“人”と関わる場所です。「言葉」や「言い方」に気を付けて丁寧に入所者さんに関わるように意識して働いています。

◆Q10：同じように日本で働くことを目指す後輩にメッセージをお願いします。

介護福祉士国家試験は確かに難しいです。家族と一緒に日本で暮らすという夢があるから、最後まで諦めませんでした。

もし、私と同じ夢を持っている方がいたら、どうか諦めないでください。1日に10問だけでもいいので問題を解く時間を作ってください。

より良い未来のために。



ありがとうございました。



◀デラさんは、2025年の新入職式にて代表挨拶をしました。

#Bekerja di Jepang
#pekerja perawatan